

留学報告書

福田哲稀

私は認定留学で約 4 か月間フィリピンのセブ島にあるラプラプセブ国際大学に留学していました。行く前から発展途上国への留学を希望していました。やはり現地では日本で体験できないような事がさまざまにありました。到着当初の第一印象は最悪でした。まず、街の風景がとても興味深く野良猫や野良犬がとても多くそのすべてが狂犬病持ちと聞いて危険と隣り合わせの生活が始まると感じたことを覚えています。街並みも道端に平気でごみを捨てていたり、ごみの山があったりとすさまじかったです。ですが、そんな街並みとは違い現地の人々はとても親切で、気さくに話しかけてくれたりしました。移動手段についても日本とは全く違い、タクシーはもちろんありますが他にもトライシクルや E-BIKE、ジプニーなど非常に安価な交通手段が多かったように感じます。しかしこれらはぼったくりにあり可能性があるため配車アプリなどが一番安全ですが慣れてきたらこれらを使うことが経済的に良いと思います。大学内は日本と同じくらいきれいに清掃されており、何か困りごとがあった際は 24 時間常駐している寮母に相談すると優しく解決してくれます、日本人のマネージャーもいるので英語での説明が難しいことでも相談は可能です。

また、大学での授業は天理大学と同じように少人数クラスで先生との距離感が近く語学力が伸びやすいと感じました。授業内容も文化的なフィリピンの歴史から実践的なビジネスイングリッシュなどとても幅広く、さらに授業内容も発表やグループトークなど発言するタイミングが非常に多く英語で何かを学びながら英語を学ぶことができました。

日常生活では大学のすぐ目の前にローカルのコンビニエンスストアがありますので非常に便利でイトインもできるので、できた海外の友達やローカルの友達とお酒を交わしながら話して打ち解けたりできる場所がありました。また、水道水が飲料水ではないので多くの人が腹痛を経験しますが寮にナースが常駐していましたので薬や簡単な診察を受けることができます。しかし不便な時もちろんあり、私が生活していた際に台風や地震などの自然災害が不運にも頻発しました。地震は大学自体には影響がなかったのですが周りの町では倒壊している家屋もありました。台風が直撃した際は断水と停電が 1 日続き、町中の道路でひどい冠水が起これり交通が停滞していて、なかなか日本ではできない経験をしました。そんな中でも学生のために食堂の従業員が食事を作りに来てくれたりと非常に感動しました。現地の大学の先生から自然災害が頻発するために現地人は隣人との繋がりや助け合いを重んじると聞いていたため、この経験から日本よりも人の温かみを感じることができて、そういった意味でもとてもいい経験になったと思います。

私はこの留学でスピーキング力の向上を目標としました。そのため授業で積極的に発言し、海外の友人を多く作り毎日彼らと話すという日常を過ごしたので確実に向上したと感じます。毎月クラスのレベルを少しずつ上げ、なるべく多くの人と話すように心がけました。

しかし 8 月以降の 3 か月は日本人しかおらず、少し残念でした。最初は 8 月とのギャップで少し落ち込み諦めかけていましたが、マインドをリセットして現地の先生や学生、住民の方たちとの交流を深めスピーキング力の向上に向けて、頑張りました。

先にも述べたようにアドバイスとして、この大学のマーケティングの方が 7, 8 月と 1, 2 月がピークシーズンで海外留学生が非常に多いと言っていたので、この大学に留学するのであれば、上記の月に行くにより英語力の向上が効果的だと思います。